

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団

第 8 期（2024 年度）事業報告

（2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日）

報告内容

I. 事業の実施状況

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 基礎研究の助成事業 | 2 |
| 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 | 3 |

II. 管理業務

- | | |
|------------------|---|
| 1. 財団の体制整備に関する事項 | 6 |
| 2. 理事会及び評議員会の開催 | 6 |
| 3. 選考委員会の開催 | 6 |
| 4. 寄付・会員の状況 | 7 |
| 5. 広報活動 | 7 |

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団
第 8 期（2024 年度）事業報告
（2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日）

当財団は、日本社会の科学基盤の発展に寄与することを目的として、2017 年 8 月 9 日に一般財団法人として創設し、2018 年 8 月 1 日に公益財団法人の認定を受けた。

第 8 期においては、前期に引き続き、①基礎研究の助成事業、②研究者と社会との新たな連携を構築する事業の二本柱を中心に活動を展開した。

①基礎研究の助成事業については、201 件の応募を受け付け、前期と同規模の助成額を確保した。②研究者と社会との新たな連携を構築する事業では、「創発セミナー」を目的に応じてオンラインと対面を組み合わせて計 8 回開催した。また「微生物機能探究コンソーシアム」においては、アカデミアと企業会員との交流が一層深化し、グループ 3 を中心としたプラスミドデータベースの構築も進展をみせた。

管理業務においても、理事会・評議員会をはじめとする会議をオンライン併用で開催し、多くの役員から貴重な意見をいただくことができた。

以下、第 8 期における事業の実施状況、及び管理業務の内容について報告する。

I. 事業の実施状況

1. 基礎研究の助成事業

第 8 期研究助成は、2024 年 5 月 7 日～6 月 30 日の期間に公募を行い、基礎科学（一般）170 件、基礎科学（酵母）31 件の応募を受け付けた。選考委員による書類審査を行い、選考委員会を開催して厳正に審査し採択候補を選定した。2024 年 10 月 7 日の理事会で承認された第 8 期採択課題の件数と確保した助成金額を過去の実績とともに表 1 に示す。第 8 期の基礎科学（一般）及び基礎科学（酵母）の研究助成対象者と研究課題はそれぞれ表 2-1、表 2-2 に示す。

表 1. 研究助成の採択件数と採択金額（金額単位：千円）

	基礎科学（酵母）		基礎科学（一般）		計	
	採択件数	採択金額	採択件数	採択金額	採択件数	採択金額
第 1 期	4	10,000	-	-	4	10,000
第 2 期	3	12,000	9	32,700	12	44,700
第 3 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第 4 期	3	12,000	9	48,000	12	60,000
第 5 期	3	12,000	10	48,000	13	60,000
第 6 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第 7 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第 8 期	3	12,000	6	48,000	9	60,000
計	25	94,000	58	320,700	83	414,700

表 2-1. 第 8 期 基礎科学（一般）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
鹿毛 あずさ	室蘭工業大学	「緑の酵母」クラミドモナスが重力を生理的に感知するメカニズム
佐藤 裕公	群馬大学	巨大膜集合体形成を介した卵リソソーム依存的分解経路の制御メカニズムとその意義の解明
古谷 将彦	福岡大学	オーキシンのシグナル伝達と極性輸送のフィードバック機構の解明
本田 知之	岡山大学	ヒトゲノムに隠された抗ウイルス防御機構の解明
渡邊 崇之	総合研究大学院大学	昆虫脳の性決定システムはどのように進化・多様化したのか？ ～原始的な特徴を色濃く残す不完全変態昆虫からのアプローチ～
和田 洋	筑波大学	軟体動物の殻形成に関わる比較発生進化学による二枚貝ボディプランの進化の解明

表 2-2. 第 8 期 基礎科学（酵母）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
丑丸 敬史	静岡大学	オートファジーに連動した液胞による核内構造体制御の解析
神 奈亜子	理化学研究所	新規小胞体液胞間タンパク質輸送モデルの構築
須田 恭之	筑波大学	出芽酵母胞子形成における生体膜消失メカニズムと生物学的意義

2024 年 12 月 23 日に対面とオンラインのハイブリッド形式にて研究助成贈呈式を行い、理事長より助成対象者に贈呈書が授与された。基礎科学（酵母）の助成対象者には、併せて大隅基礎科学創成財団酵母コンソーシアムフェローの称号が授与された。

酵母コンソーシアムフェローは共通の Slack チャンネルで、セミナーのテーマや課題について情報交換を行い、不定期ではあるが Zoom でのオンライン会議を継続している。また今期は 2025 年 3 月 18 日に静岡県男女共同参画センターで対面にて酵母研究発表会を開催した。

第 9 期研究助成は、2025 年 5 月 7 日～6 月 30 日の期間に公募を行い、基礎科学（一般）185 件、基礎科学（酵母）34 件の応募を受け付け、選考を開始した。

2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業

(1) 創発セミナー

財団の活動に賛同する基礎研究者と企業の研究者等が自由に意見を交わし、基礎科学と産業界の新しい協力関係を構築する場として創発セミナーを年間 8 回開催した（表 3）。8 回中 5 回はオンライン開催とした。2024 年 9 月の感謝の集い、12 月の研究助成贈呈式は人数を制限して会場参加とオンラインのハイブリッド形式で開催し、2025 年 4 月のアドバイザー会議は対面で開催した。

表3. 第8期創発セミナー

回	日程	場所	テーマ（演者）	参加者数
1	2024 年 9 月 18 日（水）	ハイブリッド 学士会館 （東京・神田）	「感謝の集い」 「細胞死と老化の仕組みを考える」 （東京大学 三浦正幸 氏）	会場：50 オンライン:160
2	10 月 25 日（金）	オンライン	「動植物ハイブリッド細胞から 見えてきたもの」 （東京大学 松永幸大 氏）	200
3	11 月 26 日（火）	オンライン	「酵母コンソーシアム」 「真核微生物の胞子およびその形成過程の謎に迫る！～基礎生物学から麴づくり・農薬まで～」 （大阪公立大学 中村太郎氏 他 3 名）	122
4	12 月 23 日（月）	ハイブリッド 東京工業大学 すずかけ台キャンパス	「研究助成贈呈式」 「植物のライフスタイルを変える マイクロRNA」 （東京大学 渡邊雄一郎 氏）	会場:20、オンライン:80
5	2025 年 3 月 3 日（月）	オンライン	「根粒菌で温室効果ガス N ₂ O を削減する」 （東北大学 南澤 究 氏 農業・食品産業技術総合研究機構 今泉（安楽）温子 氏）	80
6	5 月 7 日（水）	如水会館 （東京・神田）	「アドバイザー会議」 財団の次の 10 年に向けて	17
7	6 月 4 日（水）	オンライン	「酵母コンソーシアム」 「生物の潜在能力を拓く 大規模ゲノム改変技術」 （東京大学 太田邦史 氏 三菱商事ライフサイエンス(株) 安川泰史 氏）	90
8	7 月 24 日（木）	オンライン	「一期一会のオルガネラとの出会い」 （九州大学 藤木幸夫 氏）	100

(2) 市民講座

市民講座は市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化を醸成すること及び地域社会への貢献を目的としている。

今期は2024年8月24日（土）「動物の卵はどのようにして親になるか」をテーマにオンラインで開催した。全国から260人が参加、理事長の挨拶の後、浅島誠氏（東京大学名誉教授）が講演、活発な質疑も行われ盛況のうちに閉会した。

また新たな試みとして、以下のとおりサイエンスカフェを3回開催した。各回とも高校生を中心に10名程度が参加し、実験体験や科学者との懇談を通じて、基礎研究を身近に感じる貴重な機会となった。

第1回 サイエンスカフェ「植物のヒミツを発見しよう」

2024年11月16日（土）13:30～16:00 埼玉大学理学部 豊田正嗣研究室

第2回 サイエンスカフェ「光を食べる微生物が視る多彩な世界」

2025年2月15日（土）13:30～16:00 東京都立大学 南大沢キャンパス 成川礼研究室

第3回 サイエンスカフェ「視えない微生物の世界をイメージしてみよう」

2025年7月13日（日）13:30～16:30 筑波大学 筑波キャンパス 竹下典男研究室

(3) 次世代を担う小中高生と研究者のふれ合いの集い

次世代を担う人材を育てるために、小中高生が最先端の科学に触れ、科学者と交流する場として、小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集いを開催した。第9回は2025年3月23日（日）に、長野県の長野市にあるJAアクティーホールをメイン会場として開催した。サテライト会場を信州大学上田キャンパスと同松本キャンパス、更には公立諏訪東京理科大学（茅野市）に設け、オンラインで双方向に結んで、保護者も含めて220名が参加した。

まず、手嶋勝弥先生（信州大学卓越教授）が「水をキレイにする化学～世界の水問題と信大クリスタル～」と題して講演し、次に、齋藤直人先生（信州大学卓越教授）が「歩行アシストサイボグの開発」と題して講演した。さらに3人目として大隅理事長が「生命に必須のリサイクルの仕組み」と題してノーベル生理学・医学賞の研究内容を講演し、「大隅先生への質問コーナー」に入り、小、中、高校生からの質問に対して本財団理事長の大隅良典が回答した。その後、参加者は、高校・大学並びに企業等が出展した科学体験ブースに移動して、実験・観察などの科学体験を楽しんだ。

今期は新たな試みとして2025年1月25日（土）、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校のご協力のもと同校会場にて「未来の科学者サロン」を開催した。中高生18名が参加し、最先端で活躍する科学者4名との交流を深める貴重な機会となった。

(4) 微生物機能探究コンソーシアム（略称、微生物コンソーシアム）

微生物コンソーシアムは、アカデミアと企業が連携して微生物学の発展を図ることを目的として、2020年12月に発足した。2024年度は、活動の5年目として、グループごとに定例会を年6回、全グループ合同で開催する全体会を対面で3回開催し、微生物学をテーマにした研究紹介の後、議論を行った。活動には参加企業からの会費を充てた。

コンソーシアム運営に関する事項を審議するために、財団理事、グループリーダー及び企業からの委員、計12名で構成される運営委員会を置き、審議結果は財団の理事会に上申した。微生物コンソーシアムの活動が契機となった国際的なプラスミドデータベース再構築の活動も予定通り進展し、着実な成果を上げた。

(5) 企業等の課題解決に向けた相談対応

実施なし。

II. 管理業務

1. 財団の体制に関する事項

2024 年 10 月 22 日の第 7 回定時評議員会において承認された 2023 年度事業報告及び計算書類等の定期提出書類、及び 2025 年 7 月 3 日開催の理事会において承認された 2025 年度事業計画及び収支予算に基づく事業計画に係る定期提出書類を内閣府に提出し、財団のホームページに掲載した。

2. 理事会及び評議員会の開催

(1) 第 1 回理事会（2024 年 10 月 7 日）（オンライン）

第 1 号議案 第 7 期（2023 年度）事業報告・計算書類の承認の件

第 2 号議案 第 8 期研究助成、決定の件

第 3 号議案 第 7 回定時評議員会招集の決定の件

(2) 第 7 回定時評議員会（2024 年 10 月 22 日）（オンライン）

第 1 号議案 第 7 期（2023 年度）事業報告・計算書類の承認の件

報告事項 第 8 期研究助成の件

(3) 第 2 回理事会（2024 年 11 月 29 日）（みなし決議）

第 1 号議案：プラスミドデータベース構築プロジェクト 2 期目の会計報告(収支・予算案)と活動計画及び前期進捗 ご承認の件

(4) 第 3 回理事会（2025 年 2 月 28 日）（みなし決議）

第 1 号議案 研究助成選考委員（酵母）の退任と新選考委員就任の承認について

(5) 第 4 回理事会（2025 年 4 月 24 日）（みなし決議）

第 1 号議案 助成金交付規程改定案の承認について

第 2 号議案 新事務局長の承認について

(6) 第 5 回理事会（2025 年 7 月 3 日）（オンライン）

第 1 号議案 プラスミドデータベース構築プロジェクト 3 期目の会計報告(収支・予算案)と活動計画及び前期進捗 承認の件

第 2 号議案 第 9 期（2025 年度）事業計画書及び収支予算書等の承認の件

3. 選考委員会の開催

基礎科学（一般）

第 1 回選考委員会（2024 年 8 月 21 日）オンライン開催

応募 170 名について、選考委員の書面審査の結果をもとに議論し、採択候補者を 20 名に絞った。

第 2 回選考委員会（2024 年 9 月 6 日）会場：東京工業大学すずかけ台キャンパス

第 1 回選考委員会で選ばれた 20 名について、選考委員全員の二次評価結果をもとに審議し 6 名を採択候補、3 名を補欠候補とし、最終的に選考委員長と理事長が予算や充足率などを考慮に入れて決定することとした。10 月 2 日、委員長と理事長が協議し、採択候補者 6 名、補欠候補者 3 名を確定し助成金額を決定した。

理事会（2024 年 10 月 7 日）オンライン開催

理事会において 6 名の採択候補者が承認され、採択候補が同様の研究課題で他の高額の研究助成に採択された場合は、補欠を繰り上げることが承認された。

基礎科学（酵母）

第 1 回選考委員会（2024 年 8 月 23 日） オンライン開催

応募 31 名について各委員による採点順位を元に意見交換を行い、各委員からの評価、意見を詳細に検討、議論して上位候補者 5 名を選抜、仮順位をつけ第一次選考結果とした。

第 2 回選考委員会（2024 年 9 月 11 日）会場：香川県県民ホール 会議室（高松）

一次選考の結果をもとに議論し、採択候補者 3 名、補欠候補者 2 名を選出し、大隅理事長から候補者及び助成金の承認を得た。

理事会（2024 年 10 月 7 日）オンライン開催

理事会において 3 名の採択候補者が承認され、採択候補が同様の研究課題で他の高額の研究助成に採択された場合は、補欠を繰り上げることが承認された。

4. 寄付・会員の状況

第 8 期は、個人、法人・団体からの寄付、法人会員年会費、及び微生物コンソーシアム年会費として総額 98,164,685 円を受領した。寄付の状況、及び毎月の収支については、理事長及び常勤理事と事務局の隔週の打合せにおいて報告を行った。

第 8 期の寄付、会員の状況は表 4 の通り。

表 4. 寄付及び会費の状況

種類	個人	法人・団体	計
一般寄付金	22,264,685 円 (367 件)	2,580,000 円 (12 件)	24,844,685 円
特別寄付金 (使途指定)	5,000,000 円 (1 件)	24,520,000 円 (8 件)	29,520,000 円
受取年会費	—	18,600,000 円 (16 件)	18,600,000 円
微生物コンソーシアム年会費	—	25,200,000 円 (12 件)	25,200,000 円
計	27,264,685 円	70,900,000 円	98,164,685 円

5. 広報活動

財団ホームページに事業内容、イベントの案内、またその報告を適宜掲載し、2025 年 1 月と 2025 年 6 月には財団の支援者に財団の活動の様子を知らせるニュースレターを送付した。

財団 X(旧 Twitter)にてイベントや理事長の活動、また研究者会員の最新研究について約 80 回の投稿を

行った。

前期、READYFOR 株式会社と提携した遺贈寄付受入れにて 1 件の申入れがあった。

第 9 期研究助成の公募、市民のための基礎科学講座の案内について関連学会に連絡し、学会ホームページへの掲載及び学会からの案内送付を依頼した。

第 9 期に開始予定のクラウドファンディングや YouTube チャンネルの準備を開始した。

以上